

IPBES

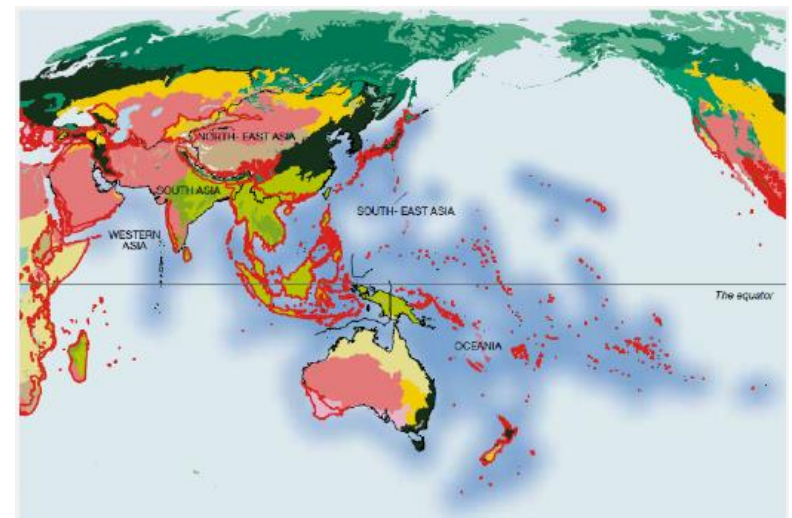
生物多様性と生態サービスに 関するアジア・オセアニア 地域評価報告書 政策決定者向け要約（SPM）の解説



本資料は、環境省主催 IPBESシンポジウム「生物多様性のための持続可能な生産と消費」
(2018年11月)における橋本禪氏の発表資料をもとに作成

IPBESアジア・オセアニア地域評価の実施概要

- 27カ国から120人以上の専門家（うち日本人専門家：25人）が参画、3年以上かけて実施
- 生物多様性と生態系サービスの重要性や現状と変化、直面する様々な課題、さらに政策や対策について評価
- 3,200以上の学術論文、政府報告書等に基づいて執筆
- 政府関係者を含む90人以上の外部査読者から提出された3,450以上のコメントを考慮
- 2018年3月にコロンビア・メデジンで開かれた第6回IPBES総会で採択



アジア・オセアニア地域と周辺地域の
生物多様性ホットスポットの分布（赤い囲みの中）



生物多様性、生態系サービス
およびその変化要因の傾向

IPBES

自然はアジア・オセアニア地域の人々に様々な恩恵をもたらしたが、さまざまな代償を必要とした（1）

- アジア・オセアニア地域は急速な経済成長と社会変化をとげている
 - ✓ 45億人の人口
 - ✓ 急速な**経済成長**（1990－2010年の平均成長率7.6%）
 - ✓ 最も急速な**都市化傾向**（年2－3%）
 - ✓ 1960年代以降農業は雇用を生み出したが、**土地利用の大きな変化**を引き起こした
- 一部地域では貧困率が高く、供給サービス（食料、燃料等）の需要が高まっている
 - ✓ 4億人以上の貧困層（世界の貧困層の52%、収入は2ドル/日未満）
 - ✓ 約2億人の人々が、森林から得られる食料、燃料、非木材林産物（キノコ、山菜等）、薬草、その他の**生活必需品等に直接依存**している



自然はアジア・オセアニア地域の人々に様々な恩恵をもたらしたが、さまざまな代償を必要とした（２）

■ 生物多様性・生態系サービスの対照的な傾向

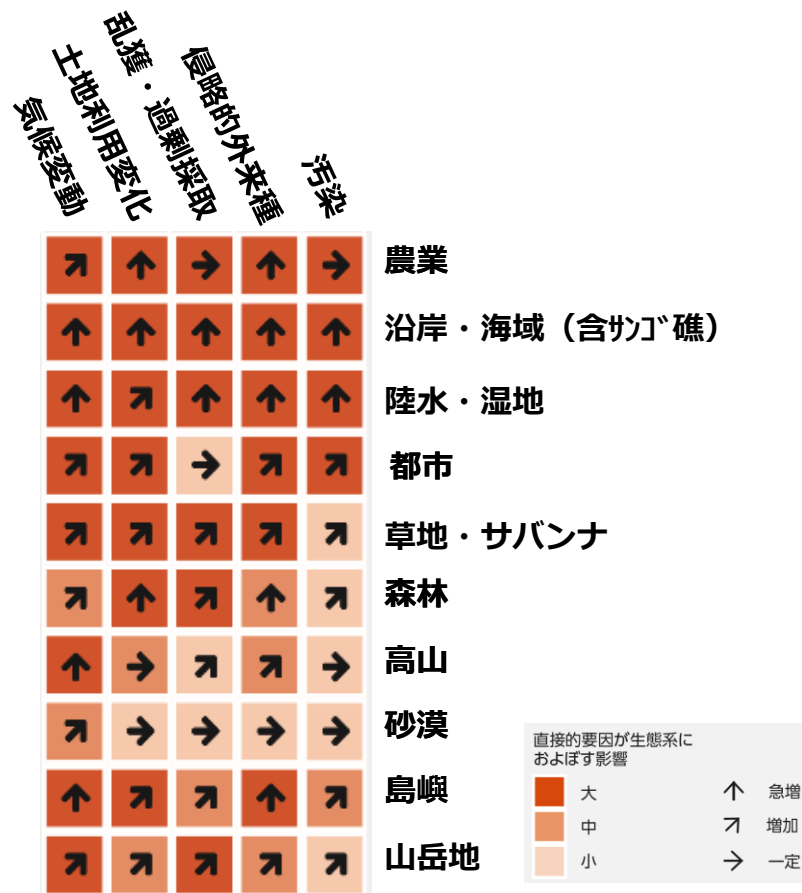
- ✓ 全ての主要な生態系が脅かされ、生息地の断片化/劣化が進みつつある
- ✓ 主要な象徴的な野生生物が急激に減少
- ✓ 作物遺伝資源の減少
- ✓ 侵略的外来種が種・個体数ともに増加
- ✓ 南アジアおよび北東アジアで森林被覆が増加したが、生物多様性への影響は不明
- ✓ 保護地域は陸上、海上の両方で増加した。しかし、ほとんどの生物多様性保全上重要な地域は依然として保護されていない



自然はアジア・オセアニア地域の人々に様々な恩恵をもたらしたが、さまざまな代償を必要とした（3）

- 主要な生態系は、さまざまな直接要因の複合的な作用により、危機にさらされている
 - ✓ **気候変動**：海面上昇、気温上昇、氷河の融解
 - ✓ **土地利用変化**：森林から農地や都市的利用への転換
 - ✓ **過剰採取**：東南アジアで全漁業生産に占める捕獲漁業の割合が70%から40%に低下
 - ✓ **侵略的外来種**：貿易、国境を越えた人、モノの移動により増加。東南アジアで335億ドルの経済損失
 - ✓ **廃棄物と汚染**：海洋、淡水域、人の健康への脅威になっている

直接要因が生態系サービスの供給に及ぼす影響の程度





2.

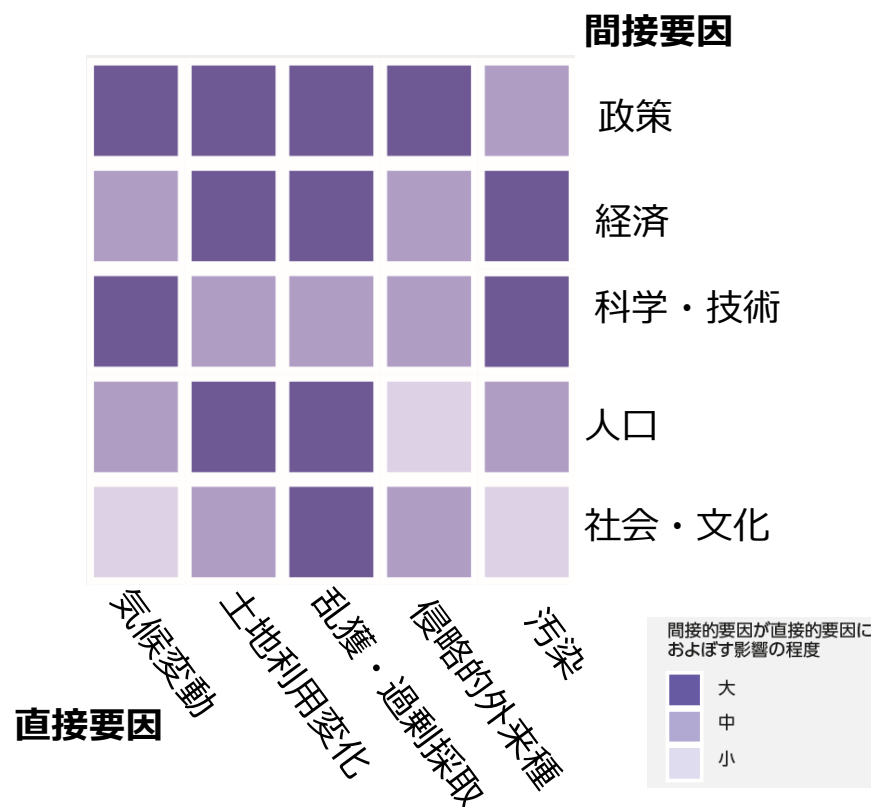
2050年までの将来予測と
その結果

IPBES

2050年までの将来予測と、持続可能な開発目標（SDGs）及び愛知目標に対する結果（1）

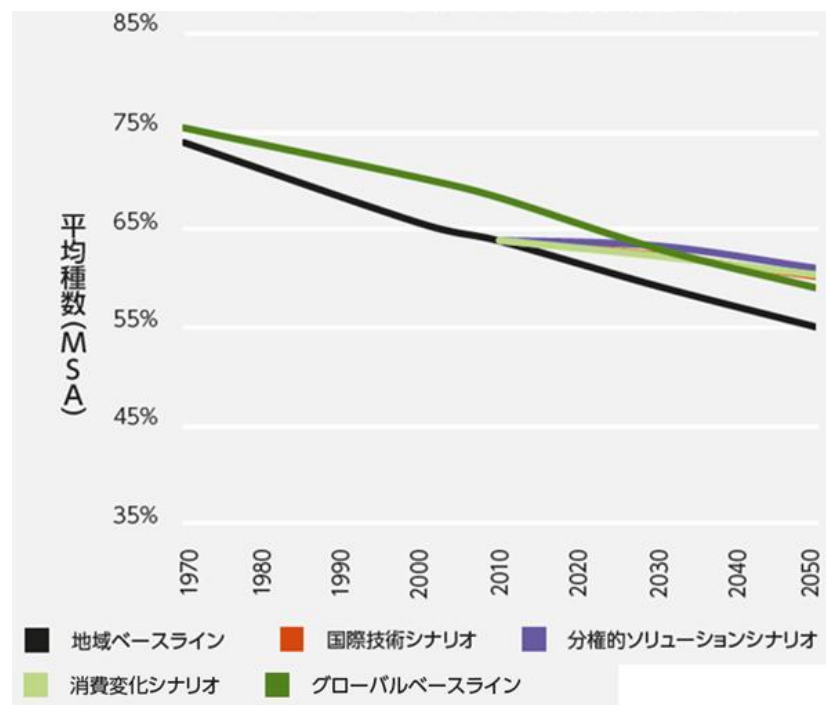
- 気候変動を含む様々な変化要因が相互作用することで生物多様性の損失が深刻化する：
 - 生物多様性の損失の加速
 - 生態系サービスへのリスクの増大
- 直接要因を引き起こす**間接要因**の存在がますます顕著に
- **間接要因**、**直接要因**の複雑な相互関係を理解することで、生物多様性に対する悪影響を軽減する解決策を見つけることができる

直接要因に対する間接要因の影響



2050年までの将来予測と、持続可能な開発目標（SDGs）及び愛知目標に対する結果（2）

- 保護地域の面積拡大は愛知目標とSDGsの達成に貢献しているが、生物多様性の損失は継続
- もし2050年までこのままの状態（BaU）が続く場合：
 - 生息地と種の45 %の損失が予想
 - 最大で90%のサンゴ礁が深刻な劣化の可能性
 - 東南アジアのスンダランド（チャオプラヤ川下流域の平野）では、今後数十年の間に、哺乳類の24%、鳥類の29%の絶滅が危惧
 - 魚種資源の急激な減少



さまざまなシナリオ下での
アジア・オセアニア地域の生物多様性損失



3.

主要な政策オプションと
知識のギャップ

IPBES

主要な政策オプション（1）

- 生物多様性保全における、地域コミュニティの有意義な参加を確保
- 主要な開発セクター（水、エネルギー、農林水産業等）における生物多様性の主流化
 - ✓ 愛知目標の戦略目標A（生物多様性の主流化）、SDGsの達成に貢献
 - ✓ 多様なセクターやステークホルダーの参画強化
 - ✓ 政策の一貫性とシナジーの確保
 - ✓ 生態系サービス等が社会経済の発展に果たす貢献をきちんと説明することで、主要なセクターへの生物多様性保全の統合を支援

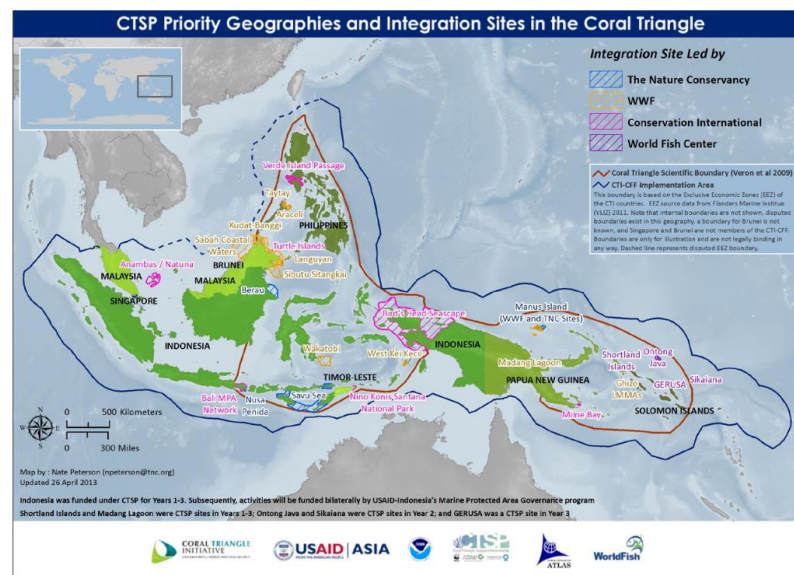


写真提供： Nguyen My Linh



主要な政策オプション（2）

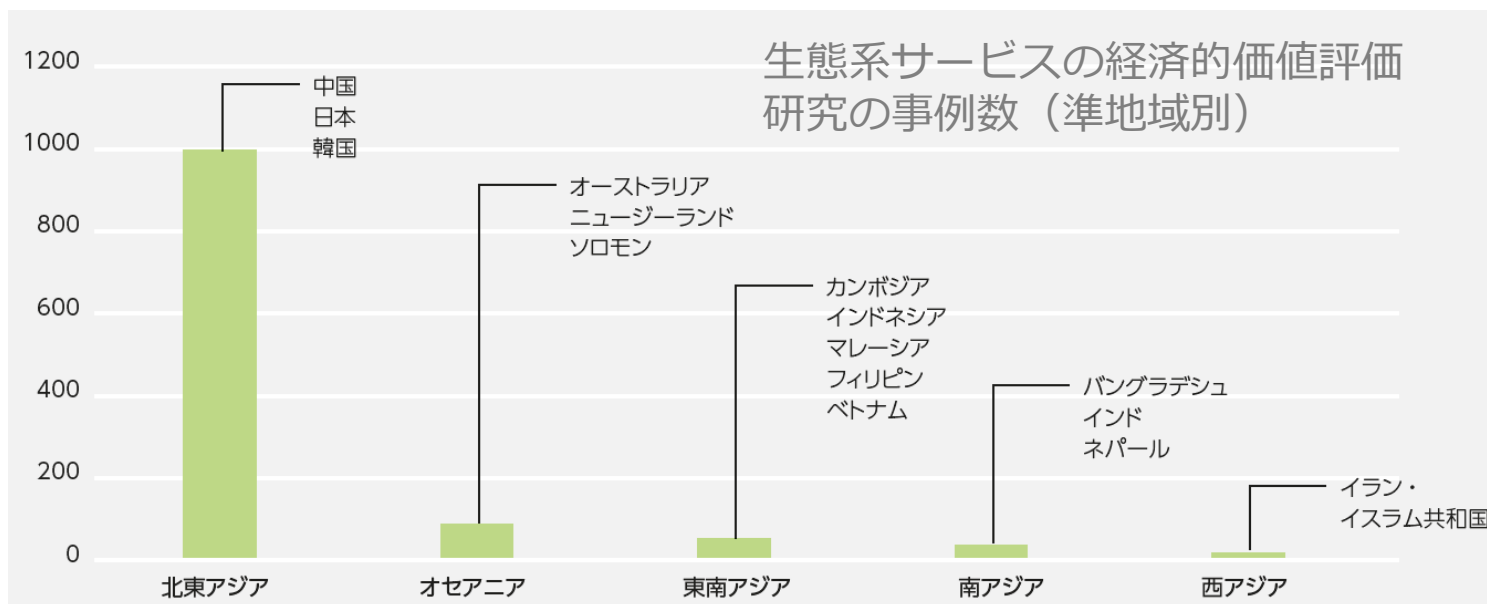
- 生態系を基盤とするアプローチの活用
 - ✓ 生物多様性保全に加えてパリ協定、仙台防災枠組、SDG s にも貢献
- 民間セクター等とのパートナーシップを強化し、生物多様性保全のための資金動員を強化する
 - ✓ 民間セクター、個人、NGOとのパートナーシップの強化は、ますます必要となっている生物多様性保全のための資金の確保を支援
- 陸域及び海域での地域内連携の強化
 - ✓ 重要なランドスケープ・シースケープについて、地域レベルや国境を越えた管理を行う事例が広がり、良い結果を生み出しつつある



(出典：コーラルトライアングルアトラス)

知識ギャップ

- 多様なステークホルダーの連携によるガバナンスや他のセクターにおける生物多様性に配慮した意思決定に関する経験の集約
- 生態系への負荷を軽減させつつ、食料、水、エネルギーの安全保障を向上させる科学技術の適用
- さまざまな政策が生物多様性に及ぼす影響について、より効果的に視覚化するためのシナリオ分析や計画手法
- 多様な価値観や価値システムの評価



より詳細な情報は:

IPBESウェブサイト

- ・ アジア・オセアニア地域評価
全資料掲載サイト

<https://www.ipbes.net/assessment-reports/asia-pacific>

- ・ 報告書(568頁)[英語]

https://ipbes.net/sites/default/files/2018_asia_pacific_full_report_book_v3_pages.pdf

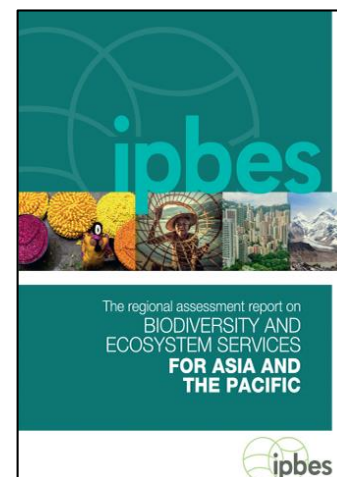
- ・ 政策決定者向け要約(41頁)
[英語版]

https://ipbes.net/sites/default/files/spm_asia-pacific_2018_digital.pdf

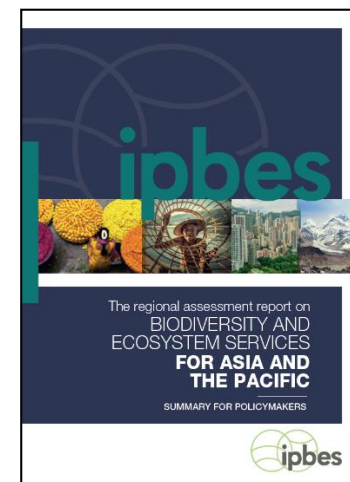
[環境省和訳版]

https://ipbes.net/sites/default/files/spm_asia-pacific_2018_jp.pdf

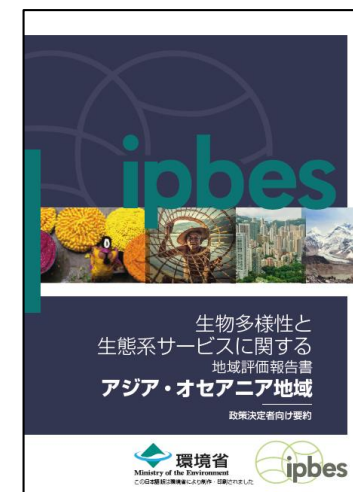
編集：環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性戦略推進室
編集協力：公益財団法人地球環境戦略研究機関



報告書



政策決定者向け要約
(英語版)



政策決定者向け要約
(環境省和訳版)